

The wave traveling all over the world

# ツツ・へルツ



「テラ・ヘルツ」は、お寺の「寺」と未知の可能性を秘めた周波数の単位「テラヘルツ」をかけたものです。この冊子が目には見えな  
い小さな波となって、みなさまの心に届いた  
ら……そんなふうに願っています。

## 目次

凡愚のつぶやき	4
お寺の掲示板	8
教えて！ フダイシさま	10
くらしの知恵箱	14
こども部屋をノック	16
お坊さん WITH ナンタラ	18
お西さんへ行く(漫画)	20
編集後記	22

# 凡愚のつぶざき

み教えによって、自分のありのままの相が知らされる

はかりしれない過去よりビッシリと煩惱の根を下ろす衆生。いや……私。いつまでたっても迷いの世界から出るべき縁のない私と深く信じ、阿弥陀様の本願はそんな私を救いにとってくださることに少しも間違いないと深く信じる。これが並起することを「信心」という。救われない私がいて、遠いところの阿弥陀様がその私を救う。……ではなく、救われないと自覚したところに既に阿弥陀様の光明が届いていた。この私と一緒にいてくださっていたと気付くことなのだろう。



\*凡愚(ぼんぐ)……平凡でありふれた人や、そのさま。

後輩の継職法要での一コマ。継職法要とは、今まで続いてきた法灯を次世代へと引き継ぐ、お寺にとっては一世一代の法要である。当然、各寺院は気張って最大限の莊嚴しょうごんをしてこの喜ばしい法縁を彩る。出勤前の僧侶たちが本堂の横の廊下に待機していた。その場所から内陣の様子が目に映る。内陣の莊嚴は見事なものだった。

ある年配のご住職が内陣の様子を凝視していた。その傍らでみなが「見事な仏花だ」「素晴らしいお莊嚴ですね」と特別な日の莊嚴を称賛していると、彼はみなをたしなめるように語り始めた。「確かに素晴らしい莊嚴だ。でも、一番ありがたいのは……」

次の言葉までの時間はそう長くなかったが、参列している諸僧の方々もこのあとに続く言葉をそれぞれの胸中で考えていたのではないだろうか。私の胸中にもこのような考えが浮かんできた。そうだ。お莊嚴の華

美を問わず、お念仏がこの罵詈雑言の絶えない口から出てくださることを忘れてはいけなかった。一人寂しい時もご一緒くださる阿弥陀様。やはり一番ありがたいのはお念仏だ。このことを忘れてはいけなかった。一人感慨深い気持ちになった。

年配のご住職は続けた。「でも、一番ありがたいのは……あの椅子だ」長時間の法要に配慮して、余間にはたくさんの椅子が並んでいた。「え。椅子？」この発言に一同、虚を突かれ啞然としていた。中には苦笑する者もいた。こんな日になんて不謹慎な人だ、と私は腹の中でこの老僧を軽蔑していた。しかし、この言葉は心の杭にずっとひっかかっている。

最近になってこの言葉を思い返すと、長い法要で正座をする時に「立てなかったら恥ずかしい」だの「膝の痛みには耐えられるのか」だの……その時間においては阿弥陀様に救われることのありがたさよりも、己の

小さなプライドや自分が楽になることばかり考えるものではないか。この言葉がひっかかったのは、心の奥底では私も「椅子が一番ありがたい」と思っていたが、周りの目を気にして言えなかっただけだからなのかもしれない。みな多かれ少なかれ瓜をメロンに見せたがっているのではないか。誰しも心のずっと奥の方では結局自分のことしか考えていない。阿弥陀様の智慧のはたらきにより己の姿を照らされたら、そこにあらわれるのは、どこまでも救われがたい罪悪深重の凡夫の姿である。そんな私に休むことなく光は届き続けているのだ。かたじけないというか、恥ずかしいというか……まあ、そう思えるのは光に照らされている証拠なのかもしれない。

「教えに出会う」とは自分が尊くなるのではなく、救われ難い私が救われ難い身のまま救われていると気付くことである。

## お寺の掲示板

鬼は外 福は内

福だけ欲しがる

この私

季節外れだけど  
伝えたい  
節分のこころ

私には、不都合なことは避けたいという気持ちがあるにありません。しかし「老・病・死」は避けることができません。仏法をよろこんだ木村無相むそう（1904～1984）さんは「ご縁ご縁みなご縁困ったこともみなご縁南無阿弥陀佛に遇うご縁」と、「老・病・死」も尊いご縁とだけいっています。

山陰の妙好人\*、浅原才市さいち（1850～1932）さんは若林春暁画伯に肖像画を描いてもらったそうです。肖像画が出来上がった時、誰が見てもそっくりな

\*浄土教、特に浄土真宗の篤信者を指す言葉。

のに、才市さんは「これは私じゃない」と言われたそうです。

「私はこんないい人間じゃない。鬼のような恐ろしい心を持って、人を憎んだり、妬んだり、恨んだりする。そんなあさましい私に、少しも描かれていない」と言うのです。そこで画伯が「じゃあ、どうすればあなたに似るのですか」と尋ねると、「頭に角を描いてください。人の心を突き刺し、傷つける恐ろしい角を、心のうちに持っていることを描きあらわしてください」と言ったそうです。そうやって出来上がった才市さんの肖像画には、頭に角が二本つけられています。

あさましの憂きことはだれにもあるよさいちにもある

病気のやまい棘とげの角二本三本はえている慈悲の鏡で見りゃわかる（浅原才市）

前住職 村上 充生

教えて！

# フダイシさま

●フダイシさまは永照寺の経蔵の中にいて、  
たくさんのお経が収められた輪蔵をお守りしています。



ママ友にマウントをとられてモヤモヤします。  
どうやり返してやろうかと悩んでいます。(32歳女性)



年配の読者のために解説しておくが、「マウント」とは見栄を張って相手よりも自分が優位だと見せつけるような行動を言うのじゃよ。  
法句経ほっくきょうに「怨みに報いるに怨みを以ってしたならば、ついに怨みの息やむことがない」という言葉があったのお。怨みは新たな怨みを生み出し、負の連鎖を招くことになるのじゃよ。マウントにはマウントではなく、「この人もなんか面白くないことやコンプレックスがあ



るのかな」と受け流してみてもいいかがかな。難しいとは思いますがグツとこらえて、連鎖を断ち切ってほしいものじゃな。

担任の先生に「夢を持って」と言われるのですが、これという夢がありません。やはり夢は持たなければダメですか？（15歳男性）

最近では、無理やり夢を語らせることを「ドリームハラスメント」と呼ぶそうだな。夢を持たなくても仕合せに暮らすことはできるんじゃないかな。経蔵から動かないワシにとっては、日常生活を頑張っているオヌシはそれだけですごいことだけどな。夢とは見つけようとするものでなく、自然と湧き上がってくるものかもしれんな。湧き上がらなくとも、オヌシは自分では気付いていないだけで、夢を持たなくても自然と今を肯定できて、小さなことで仕合せを感じる



素敵な感性を持っているのかもしれないぞ。

志望校に合格した友人にイラっとしました。私は心が汚いのでしようか？（18歳女性）



どういう状況かわからないが、自分が不合格で相手が合格だったらイラっとするだろうな。「人格者」とか「いい人」はいると思うが……それも所詮、人の心理を把握して人の好む言葉や行動を選ぶのが上手なだけじゃよ。また、どのような人格が好まれるかを熟知しているだけかもしれない。根っこまで心が綺麗な人間なんていないと思うぞ。ワシも心の中は人様には見せられんわ。誰しも自分にしかわからない汚いものを抱えて生きているものじゃよ。まあ汚い自分の心に向き合うことは大切だと思うぞ。

# 「テラ・ヘルツ」が電子書籍に!

バック  
ナンバーが  
読めます♪



より多くの方に、もっと気軽に本をお届けしたい。そんな思いから、「テラ・ヘルツ」を電子書籍化いたしました。バックナンバーが揃っていることはもちろん、遠くにお住まいの方でも簡単にお楽しみいただけるようになりました。

## Kindleで「テラ・ヘルツ」を読む方法

- 1 スマートフォンやタブレット、パソコンを用意する
- 2 Kindle アプリをダウンロードする (無料)



### Kindle (キンドル) とは?

Amazon (アマゾン) が提供する電子書籍のことです

ダウンロードは  
こちら

### 対応デバイス

iOS, Android, PC/Mac 版があります  
QR からダウンロードいただけます



- 3 Amazonで「テラ・ヘルツ」の好きな号を購入する

### Kindle Unlimitedなら無料で読み放題

Kindle Unlimited (サブスクリプション) に入っている方は無料で読めます

創刊号はこちら

テラ・ヘルツ お寺

「テラ・ヘルツ お寺」で検索するとスムーズです



くらしの



知恵箱

インスタントサンキュー

敬老の日に、地域で行われる催しに激怒するおじいちゃんがいました。「こんな日だけ、ほれお祝いだ弁当だ、取って付けたようなことしやがって。絶対にいかん」。



現在の日本には表面上だけ立派なものや、形だけのお礼、義理だとか本命だとか、サンタだとかトナカイだとか……取って付けたようなイベントで溢れかえっています。「絆」を大切にする割には、近所付き合いは疎遠になり、親の葬式すらしない人もいるとかいないとか。良いことを声高に言う人は多いけれど、実践できる人は希有です。

イベントが感謝や想いを伝える「きっかけ」になることはあるかも知れませんが、しかし、本質は一回のイベントではなく毎日の地味な行動で培われるような気がします。毎日の行動あつてのイベントなのでしょう。そんな私も「書くことは易し 行うは難し」じゃありませんが、毎日を大切に行動できているかを自問自答する日々です。

# こども部屋をノック

雑草という草はない。それぞれに輝きがある。でも…

マサオ君が威勢よく草を抜くと、お母さんが叫びます。

「ちよっと、何しているの！ さっき私が植えたハーブじゃない」

「ハーブ？」

「そうよ。役に立たない草は雑草。役に立つ草は薬草、ハーブ。覚えておきなさい」

マサオ君はわかるような、わからないような気持ちになりました。

マサオ君にとっては、庭にあるすべての草が雑草だからです。



だから、お母さんの行動は雑草を抜いて雑草を植えているようにしか見えません。

お母さんが抜いた雑草を手にとって、マサオ君が言いました。

「お母さん、10年後、この草がすごい薬草ってことがわかったりしてね」  
お母さんは呆れた顔をしています。

庭の隅にひっそりと佇んでいたドクダミ太郎。ふと、マサオ君と目が合いました。

マサオ君が近づいてきます。ドクダミ太郎はドキドキしています。

「ワシはどっちなんじやろう……」

お坊さん

WITH

ナンノヲラ

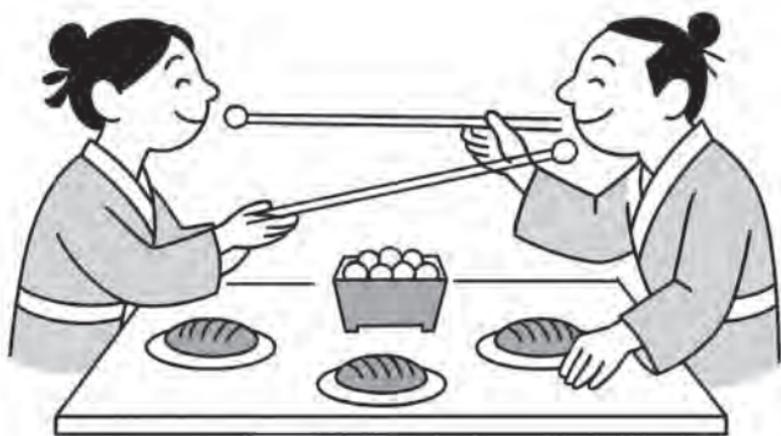
## お坊さんと箸

●毎回ランダムにテーマを選び、エピソードを語ってもらいます。

地獄にたくさんのごちそうが並べられた机があります。ただ、箸の長さが一メートル近くあり、なかなか食べ物を口にする事ができません。「箸が長くて食べられない」「お前の箸が邪魔だ」と文句を言いながら、時間が経過していきます。

一方、極楽にも地獄と同じように、ごちそうと一メートル近い箸があります。ただ、極楽の住人たちは、長い箸を用いて相手にごちそうを食べさせてあげます。そして相手からごちそうをいただきます。

同じ条件なのに、まったく違う世界が展開されるのです。日本では『三尺三寸の箸』という説話で伝えられていますが、出典は不明です。なんとヨーロッパにも似たような話はあるそうです。箸がスプーンに代わるそうです……。自分ばかりに執着せず、他を思いやることの大切さは万国共通かもしれないですね。「箸を使わず手で食べればいいのに」と思ったあなた。それはそれで名答かもしれない。



# お西さんへ行く

～京都・西本願寺訪問記2～

西本願寺の書院をご案内します  
桃山時代に発達した豪華華麗な書院造の建物で障壁画等で装飾されているんです



虎の間



虎だ！

現在は親鸞聖人の降誕会に祝賀能が舞われています



南能舞台

縁側から向かって左が南能舞台

西本願寺  
工藤惇昭さん

書院は対面所と白書院に分けることができます  
こちらへどうぞ

正面欄間に雲の中を飛ぶ、鴻の鳥が彫刻されていることから、「鴻の間」とも呼ばれています

豪華！

鴻の間 (対面所)

向かい側が対面所です  
200畳あまりの大広間で、門主と門徒が対面する場所です





春節の賑わいが落ち着いたころ、台北国際ブックフェアが開催される台湾へ向かいました。首都に降り立つと、目に飛び込んできたのは無数のスクーター。街は騒がしさの中に、熱気と活気が渦巻いているようでした。そして、働く人々を支える朝食文化。早朝から漂う食欲をそそる香りに誘われ、人々は次々と屋台に立ち寄り、手際よく朝食を済ませては、再び街の喧騒へと消えていきます。その光景は、まるでこの国の力強い動脈を眺めているようでした。

その後、台湾中部の古都、台南へ足を運びました。古い街並みが今も息づくこの地で、私は人々と宗教、そして信仰の深い繋がりを目の当たりにするのです。パッションフルーツのような鮮やかな色彩で彩られた廟には、多くの仏像が賑やかに佇み、花やお供え物が所狭しと並べられています。地元の人々は慣れた手つきで線香をあげ、神聖な木片を使った神杯占いに興じていました。ある廟から流れてきたのは、どこか懐かしい雅な音楽。古典的な旋律の中に、胸を躍

らせる重低音が響いてきます。目をやると、伝統楽器の楽団の中に一台のエレキベースが加わり、その音色がメロディに深みとリズムを与えていたのです。チョコレートにお線香が立てられているのを見た時には、一瞬目を疑いましたが……。陽気で開放的な雰囲気にも包まれ、いつの間にか私はその空間に惹き込まれていました。

言葉ではうまく説明できないけれど、その場全体がこの世を盛大に祝い、生きている喜びが満ち溢れている、そんなエネルギーが伝わってくるようでした。台湾では、仏様はきつと人々の日常に寄り添う、とても身近な存在なのでしょう。お供え物をし、線香をあげ、手を合わせる。それは、彼らにとって呼吸をするように自然な行為なのかもしれません。今でもあの幻想的な空間を思い出すと、不思議な感覚とともに、活気ある人々の暮らしの根底にある「礼拝」や「救い」を通して、台湾と私は確かに繋がっている、そんな気がしてくるのです。

「テラ・ヘルツ」は、みなさまからのおたよりやご意見  
ご感想を募集しています。以下のQRコード・ハガキ・  
FAX・メールなどから、お気軽にお送りください。

住所・名前・電話番号・年代・性別を  
ご記入ください

〒803-0814

福岡県北九州市小倉北区大手町16-16

永照寺 テラ・ヘルツ係

**Fax** | 093-591-4989

**E-mail** | [tera.hertz.book@gmail.com](mailto:tera.hertz.book@gmail.com)

スマホで  
簡単応募



---

## テラ・ヘルツ 7

発行 令和7年5月1日

発行 永照寺

執筆 村上慈顕、村上充生

編集 青木紀子

デザイン・イラスト・漫画 南佳奈江

---